

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立大崎小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

- 健康でねばり強い子どもを育てる。
- 自分で考え、すすんで実行する子どもを育てる。
- 美しいものにあこがれ、だれとでも仲よく助け合う子どもを育てる。

今年度の指導の重点

- 心身ともに健やかな子どもを育てる。  
・自己肯定感、自尊感情を育てる。 ・健康な体で、ねばり強い心を育てる。
- 基礎学力の定着を図り、自ら考える子どもを育てる。  
・学習規律、読み・書き・計算の定着。 ・感動体験、成就感、達成感を味わわせる。
- 自らを律し、助け合う子どもを育てる。  
・きまりを守って人に迷惑かけずに生活できる。 ・協働の喜びを味わわせ、主体性・実践力を育成する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

国語A・B、算数A・B、理科の5つの調査とも、県平均と比べると正答率がかなり低い。国語Aは、昨年度の調査よりは少し改善され、県平均に近づいてきた。国語Bは正答率が10Pの開きがある。

国語Aの「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域については、県平均と比べて15P以上の開きがあり、国語Bはどの領域も約20Pの開きがあり、改善にはなっていない。

算数Aの結果を領域別に比べると、「図形」の領域の正答率が低く、「数量関係」の領域が県平均にかなり近づいている。

算数Bの結果を領域別に比べると、「数と計算」の正答率が低い。評価の観点で見ると、「知識・理解」の正答率が60P以上あるが、「数学的な考え方」については、20Pにとどまっている。算数A・Bともに改善にはなっていない。

8.9 - 0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ。本校50.0% (全国71.0%)  
28 + 72を計算する。本校100% (全国98.2%) 四則計算の技能は身につけているが知識・理解は不十分。  
インゲンマとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く。  
本校18.8% (全国44.2%)

植物の育ちと日光の関係の理解不足と活用能力(記述回答)が身につけていない。

【学習状況調査の結果】

平日、1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間(2時間以上)の割合は、県平均と比べて高い。

平日、1日あたりのテレビゲームをする時間(1時間以上)の割合は、県平均と比べて同程度である。

平日、1日あたりの携帯電話・スマートフォンの使用時間の割合(30分より少ない)は県平均より低く、携帯電話・スマートフォンを持っていない児童の割合は高い。

家庭での学習時間は、2時間以上する児童の割合は県平均と比べて高いが、30分より少ない児童の割合も高いことから、家庭学習の定着している児童とそうでない児童の二極化が見られる。

1日あたりの読書をする時間(30分以上)は、県平均に比べて低い。読書を全くしない割合や図書館や図書室に本を借りに行かない児童の割合は県平均に比べて低い。

地域行事に参加している児童の割合は高いが、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心のある児童の割合は低い。

「自分には、よいところがある」と思っている児童の割合は、県平均に比べて低い。

「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合が県平均と比べて、かなり低い。

家庭学習を1時間以上している。→ 本校56.2% (県平均66.1%)

自分によいところがある。→ 当てはまる 本校21.9% (県平均38.0%)

学校のきまりを守っている。→ 当てはまる 本校25.0% (県平均46.7%)

成果と課題

国語、算数、理科と3つの教科において、基礎基本の学力が十分習得できていない。国語A、は62.9(昨年度55.9) 国語Bは、44.4(昨年度34.4)と正答率は上がっている。

国語、算数ともに、活用型の問題を苦手としている。解答に至るまでに、質問の条件提示などを理解できないまま臨んでいる。

理科は、用語が理解できていない。また、実験や観察における条件整備について理解できていない。実験活動が知識や活用に生かされていない。

国語、算数ともに「国語(算数)の勉強は大切だ」「学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」と思っている児童が9割以上いる。

自己肯定感や規範意識の低い児童が多い。また、善悪の判断ができにくいと感じられたり、周りの人や社会に目を向けることができにくいと思われる児童が多い。

昨年同様に、読書時間が少ない児童(10分より少ない)や読書をしない児童の割合が4割を超え、改善されていない。

課題に対応した改善方法

学習内容・時間の確保と確認の徹底。最低学力保障として「大崎自律プログラム」に全校で取り組む。各学年で早めの漢字習得学習を行い大崎漢字を行う。またかけ算九九、47都道府県覚え、歴史人物54人覚え、なわとび二重跳び50回、鉄棒逆上がりなど学力・体力向上を行う。

「授業と生徒指導の一体化」を図るために、児童に目標設定を行い、自分の成長を意識させたり、自己決定力を身につけさせたりするために、「変心カード」を定期的に記入させる。

津山市教委より授業改善の視点(提案～)を授業に取り入れ、導入の工夫や展開の中での児童同士の話し合い活動の充実、終末での学んだことや自分の考えをノートに書くことなどを行っていく。

多めの宿題や進んで行う自主学習、予習の手引きなど配布し、家庭学習の充実を図る。また、読書の時間を充実させるために「読書カード」の取り組み、また家庭の協力を得るために「お手伝い・マッサージカード」の取り組みを行う。

取組の検証方法及び検証時期

児童への学力テスト(県たしかめテスト・NRTテスト)の実施。(2学期10月中旬 3学期2月中旬)

児童へのQ-Uテストの実施(学期ごと)

知能テストの実施(1・3・4年実施 10月中旬 2・5・6年生は昨年度実施)

上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

「国語や算数の勉強が好き」に当てはまると答える児童の割合を40%以上にする。

「読書が好き」に当てはまると答える児童の割合を50%以上にする。

家庭学習時間(1時間以上)の割合を60%以上にする。

学力テスト(NRT)の全校正答率の目標値48(H28.2実施)以上を目指す。(H27.2は46)